



# ハコビ

はこび



## 使用例 版に絵具をのせる



ハコビに絵具を含ませて、絵皿から版木に絵具を運びます。ハコビに含んだ絵具は凸部に少しずつのせるようにします。

## 概要

ハコビ（運び）は、版画の板目水性木版の摺りにおいて、絵具を溶く際や溶いた絵具を版上に運ぶ際に使用する、竹皮を細く裂いて棒に巻きつけた箒（ほうき）のような形状をした道具です。ハコビは浮世絵の時代から使われており、摺り師が自製していたそうです。溶き棒とも呼ばれる場合があります。

ハコビは、裂いた竹皮部分に絵具を含ませて、版の上に絵具を運びます。ハコビを使うと、箒状に裂かれた竹皮の繊維に筆よりも多くの絵具を多く含むことができるため、大変に便利です。使用後のハコビは、絵具や糊を洗い落とし、しっかりと乾燥させましょう。ハコビは軸を短く切った太い筆などで代用することができます。

ハコビを自製する場合には、竹皮と竹串や割箸などの棒、糸を用意します。ハコビに用いる竹皮は、なるべく根元に近い硬い部分のものを使用します。バレンを包んだ残りの竹皮を使用すると良いでしょう。竹皮は幅が5cm、丈が10cm程度のもので3枚ほどあれば十分です。

はじめに竹皮は、ぬるま湯に7分程浸けておきます。ぬるま湯に浸した竹皮は、内側の根元から2cm程に繊維と垂直にカッターで切り込みを入れ、この切り込みを折り曲げて甘皮を剥ぎ取ります。甘皮を剥いだ竹皮は、繊維が棒と平行になるように巻きつけ、糸でしっかりと縛って固定します。竹皮は先端が棒から3～4cm出るくらいに切り落とし、針や画鋏などを用いて、繊維にそって細かく裂いてほうき状にします。竹皮の先端が細くなるほど、絵具を多く含むことが可能です。この裂く作業には、木片に木綿針を5、6本挟んで櫛状にして固定した裂き櫛と呼ばれる道具を使用すると作業が捗ります。

竹皮の薄い部分を使用してハコビを作る場合には、甘皮を剥ぐことが困難なために甘皮を剥がさずに棒に巻きつけて糸で固定してからぬるま湯に浸し、木槌で竹皮の先端を叩きます。この作業を行うことで、叩かれた竹皮の甘皮がポロポロと剥がれて繊維をほぐすことができます。

ハコビは版画用品が置いてある画材店でも購入することができます。

## ハコビのつくり方



手順1. 竹皮の根元の硬く厚い部分を用意します。3枚ほどあるとよいでしょう。



手順2. 用意した竹皮はぬるま湯に7分ほど浸しておきます。時間が経ったら取り出して雑巾などで水気を拭き取りましょう。



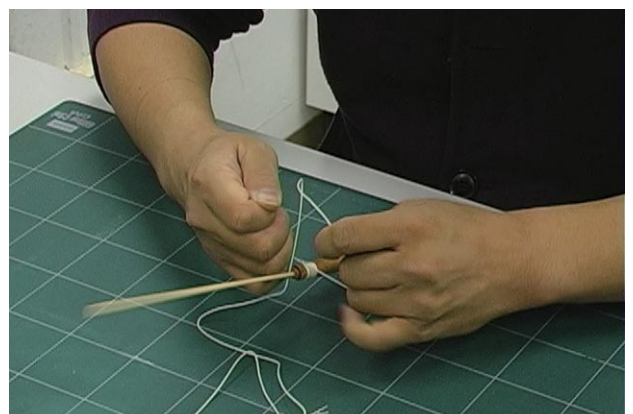
手順3. カッターで根元の部分にあま皮の厚さ分の切り込みを入れます。



手順4. 切り込みを入れた部分のあま皮を少しめくり、根元側を口にくわえ、めくった部分の皮を引っ張って剥ぎ取ります。



手順5. 用意した全ての竹皮のあま皮を剥ぎ取り終わったら、竹皮の根元が残っている部分を竹ひごに巻きつけて、たこ糸などを使いしっかり固定します。



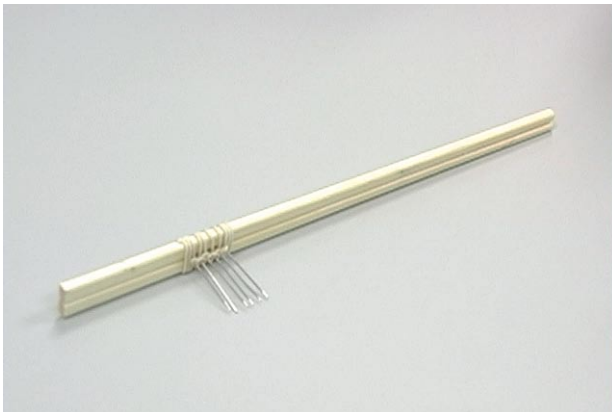
手順6. 竹皮は乾くと縮むのでしっかり巻きつけます。



手順7. しっかり竹皮を固定することができたら、余分な竹皮や竹ひごを切り落とします。竹皮は竹ひごから3～4cmほど出ているくらいが使いやすいでしょう。



手順8. 竹皮の先端部分の繊維を細かく裂いていきます。画鋸や釘、針などを用いるとよいでしょう。ハコビは乾かして完成です。



補足 ハコビを裂く際に木片や割りばしに針を固定した櫛状のものを作って用いると作業がはかどります。